

□校庭舗装材比較表

舗装分類		クレイ系舗装		ゴムチップ舗装		砂入り人工芝		ミドルパイル人工芝		ロングパイル人工芝	
イメージ											
仕様		緑輝岩を砕石した舗装材		ゴムチップ(合成ゴム)を接着剤で固めた舗装材		人工芝に珪砂を充填したもの (通称オムニコート)		合成繊維(ポリエチレン樹脂等)を表面材とし 充填材なしの人工芝		合成繊維(ポリエチレン樹脂等)を表面材とし 珪砂やゴムチップを充填 (メーカーの仕様によって異なる)	
特徴		区の小・中学校の標準仕様 機能性や利便性は良いが、砂埃による周辺住環境への影響等がある		砂埃による影響が懸念される場合等に採用を検討 全天候型で機能性が高く、維持管理が容易だが、雨天時は滑りやすく、夏場は表面温度が高くなる		テニスコートで一般的に使用される人工芝 学校でグラウンド一面に採用している事例はない		マイクロプラスチック対策として近年の施工実績が増加 耐久性は高くなく、静電気対策なども必要 充填材がないため、ロングパイル人工芝に比べ表面温度は低い		ゴムチップ舗装と似た特徴を持っているが、車両制限があること、マイクロプラスチックの流出対策が必要 ※浸水の恐れのある場所での採用は、充填材流出のため注意が必要	
機能性		▲	降雨や降雪後は、使用制限	◎	全天候	◎	全天候	◎	全天候	◎	全天候
多目的利用		◎	多様な活動や行事に適する	▲	・白線の可変性に難がある ・火気厳禁	▲	・白線の可変性に難がある ・火気厳禁	▲	・白線の可変性に難がある ・火気厳禁	▲	・白線の可変性に難がある ・火気厳禁
防塵性		▲	砂埃が立ち易い	◎	埃は立たない	○	砂埃は立ちにくい	◎	埃は立たない	◎	埃は立たない
透水性		▲	砂質系で透水性は良好だが 経年により透水性が悪くなる	◎	水はけが良く、水溜りは発生しにくい	◎	水はけが良く、水溜りは発生しにくい	◎	水はけが良く、水溜りは発生しにくい	◎	水はけが良く、水溜りは発生しにくい
安全性		○	・岩石を砕いて生成された材料のため 擦り傷等が生じ易い ・運動に必要な適度な弾力性を有するが 乾燥すると硬くなる	○	・雨天時は滑り易い ・適度な弾力性があるため、足腰の負担は少ない	○	・適度な弾力性があるため、腰の負担は少ない	○	・充填材がないが、アンダーパットを用いることで安全性確保ができる ・静電気対策が必要 (冬場の散水、鉄棒等との縁切り等)	○	・充填材が珪砂やゴムチップであり 弾力性に優れ、足腰に優しい ・クッション性が高く、転倒時の危険性が少ない
競技 適 応 性	サッカー	○	可	▲	転倒時の危険性あり	○	可	◎	優れる	◎	優れる
	野球	○	可	▲	転倒時の危険性あり	○	可	◎	優れる	◎	優れる
	バスケット	○	可	◎	優れる	▲	バウンドしにくく不規則	○	可	▲	バウンドしにくく不規則
	テニス	○	可	◎	優れる	◎	優れる	○	可	▲	バウンドしにくく不規則
	ソフトテニス	○	可	◎	優れる	○	可	▲	バウンドしにくく不規則	▲	バウンドしにくく不規則
	スパイク利用	○	可	▲	不可	▲	不可	○	可	○	可
維持管理		○	・日常管理はブラシ掛け程度 ・砂の補充 ・散水や側溝清掃など砂塵対応が必要	◎	・日常管理は不要 ・使用頻度により表面のコーティングや部分的な張替が必要 ・夏場の表面温度抑制の散水が必要	◎	・日常管理は不要 ・使用頻度により人工芝のブラッシングおよび充填材の補充が必要 ・夏場の表面温度抑制の散水が必要	◎	・日常管理は不要 ・使用頻度により人工芝のブラッシングが必要 ・夏場の表面温度抑制の散水が必要	◎	・日常管理は不要 ・使用頻度により人工芝のブラッシングおよび充填材の補充が必要 ・夏場の表面温度抑制の散水が必要